

中学部 作業学習指導案（紙漉きグループ）

1. 単元名 「バザーに向けて製品を作ろう」

2. 指導についての考え方

(1) 生徒の実態

本グループは、中学部1年生〇名、2年生〇名、1年生〇名の計〇〇名の生徒が所属している。メンバーのうち、2単位時間通しての作業学習を初めて経験する〇年生が半数近くをしめている。また、プレハブ校舎が1学期の途中で建て替わり、前作業室よりも狭い現在の作業室へと移動したこともあり、グループ全体が落ち着いた雰囲気の中で作業に取り組めるまでには至っていないのが現状である。しかし、一人ひとりを見れば、情緒面や身体面で個別の支援を必要とする生徒もいる一方で、徐々に作業学習の流れや工程に見通しが持てるようになり、意欲的に、かつ、自信を持って作業に取り組んでいる生徒も増えてきている。

(2) 単元設定の理由

本グループでは、学校の給食でも毎日見ることができ、牛乳パックという身近なものを材料にリサイクル紙を作っている。牛乳パックを加工していくことで、材料が変化していくおもしろさと、一枚の「紙」という単純な平面の物ができあがる明快さが、この作業の特徴である。

「紙漉き」という作業は「ラミネートはがし」「紙ちぎり」「ミキサーかけ」「漉き」の大きく4つの工程に分けられる。一日の作業の中で、全工程を一人で行うこともできるし、役割分担をすることもできる。また、生徒の実態に応じて工程を細分化することも可能である。

一日の作業の中で、材料が変化し完成するまでを見ることができ、分業においても、自分がどういった役割を果たすのかが理解しやすいといえる。そのため、生徒の実態や目標に合った作業内容を設定することができ、また、皆で協力して一つの物を作るという意識を持つことができる。

バザーに向けての取り組みでは、牛乳パックから作った「紙」を、さらに加工して製品として仕上げていく。この段階では、加工する楽しさを味わうことができる。また、製品化を意識することで、紙としての美しさの完成度が求められるが、生徒にとっても、きれいな仕上がり（厚さが均一でしわのないもの）の目安が、単純でわかりやすい。そして、失敗しても、繰り返し使える素材なので、何度でもやり直しをすることができる。このため、美しい紙を目指し、自分なりに工夫をしようとしたり、やり直しをしようとしたりする生徒も出てきている。

(3) 指導にあたって

○教材教具の工夫

作業への意識付けと、開始と終了を明確にするため、出席カードを活用する。また、各個人がその日の活動を振り返られるよう、がんばりカードを準備する。

各個人に対し、その日の活動と流れが理解できるよう、作業内容と順番を写真カードで提示する（スケジュールカード）。スケジュールカードは、その時々の生徒の様子でフレキシブルに変更できるようにし、個別の休憩時間の設定や、時間配分にも対応する。

作業の途中で細かく到達度を確認し、意欲を持続させる必要のある生徒については、個別のシール表などを利用する。

紙漉きとミキサーに関しては、順番カードを活用することで自主的に活動ができるようにする。ミキサー交代を伝える「つぎどうぞ」カードを受け渡すことで、生徒間のコミュニケーションを促し、協力して作業することを意識づける。

生徒の実態に合わせ補助具を準備し、少ない支援で作業が行えるよう工夫する。

○場の工夫

場を構造化し、各工程の場所に手順カードを掲示するなど、生徒にとってわかりやすい環境を整える。

途中休憩が必要な生徒のための休憩場所を確保し、作業と休憩の切りかえをしながら心理的安定を自ら図り、作業継続時間を延ばしていけるようにする。

○教師の関わりの工夫

各個人に合った作業工程を分担することで、一人ひとりが持てる力を十分に発揮し、できるだけ少ない支援で取り組み、意欲的に継続して作業ができるようにする。また、分担する作業が、連続した作業工程の一つであり、協力して作業を行っていることを意識づけられるようにする。また、教師は支援者であるとともに、作業をする者でもあるという意識を持つ。

3. 単元目標

- ・自分の仕事に分かり、友だちと協力して取り組む。
- ・使用する材料や道具の適切な取り扱い方を身につけ、安全に使用する。
- ・バザーで売れる製品作りを意識し、より丁寧にきれいに仕上げることを心がける。

4. 生徒の実態と、個別の目標

| | A (〇年男) | B (〇年男) | C (〇年男) |
|------------|--|---|--|
| 個別の指導計画の目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・行うべき作業内容が分かり、自主的に取り組める。 ・A4やB4の大きさの紙を均等な厚さにすけるようになる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・継続して作業をする時間を、延ばすことができる。 ・できるだけ少ない支援で、作業をすることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・静かに安定して作業に取り組むことができる。 ・支援者を引き止めず、作業を続けて取り組むことができる。 |

| | | | |
|----------|--|--|---|
| 単元に関わる実態 | <ul style="list-style-type: none"> ・紙漉きの作業手順は覚えており、一人で作業を進めることができる。 ・はがき大はきれいにできるようになったため、A4やB4サイズの紙に挑戦している。 ・ぬれたタオルの交換やパルプを足すことには、まだ声かけが必要である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教師が、横で一緒に作業をしていれば、離席せずに作業に取り組むことができる。 ・紙を漉く工程を覚えており、教師が側で見守っていれば、ほぼ一人で紙を漉くことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・一つの作業が終わると報告することができる。 ・はがきサイズの紙漉きを一人で行うことができる。 ・タオルの交換は、まだ定着していない。 ・牛乳パックをカードサイズに切ったり、紙を細かく切ったりすることができる。 ・かん高い声を出したり、手のひらで音を鳴らしたりする癖がある。 |
| 単元における目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・B4サイズの紙を、厚さを均等にして漉けるようになる。 ・紙漉きが終わると、報告ができるようになる。 ・スケジュールカードを見て、進んで活動する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・作業に必要な道具を、自分で準備することができる。 ・時間いっぱい継続して、作業に取り組むことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・作業に必要な道具を自分で準備することができる。 ・その日の作業内容を理解し、目標意識を持って取り組むことができる。 |
| 支援の工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・スケジュールカードで、その日の作業の流れを説明する。作業の流れは、できるだけ固定しておく。 ・紙漉きの場所に手洗い用の桶を準備し、手についたパルプを落とせるようにする。(パルプの塊を入れないようにするため) ・パルプを準備しておき、1枚漉くごとに足すように、声をかける。 | <ul style="list-style-type: none"> ・作業の流れを固定し、一日の作業に見通しを持てるようにするとともに、スケジュールカードで作業内容を示すことで、自分で道具を準備できるようにする。 ・教師が、横で一緒に作業をすることで、席に着いて継続して作業に取り組めるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・スケジュールカードで、その日の作業内容と流れの理解を促すことで、言葉かけを少なくし、より作業に集中して取り組めるようにする。 ・かん高い声などを出した時など、注意をしても逆効果な事が多いので、注意は肯定的な言葉で促す。 |

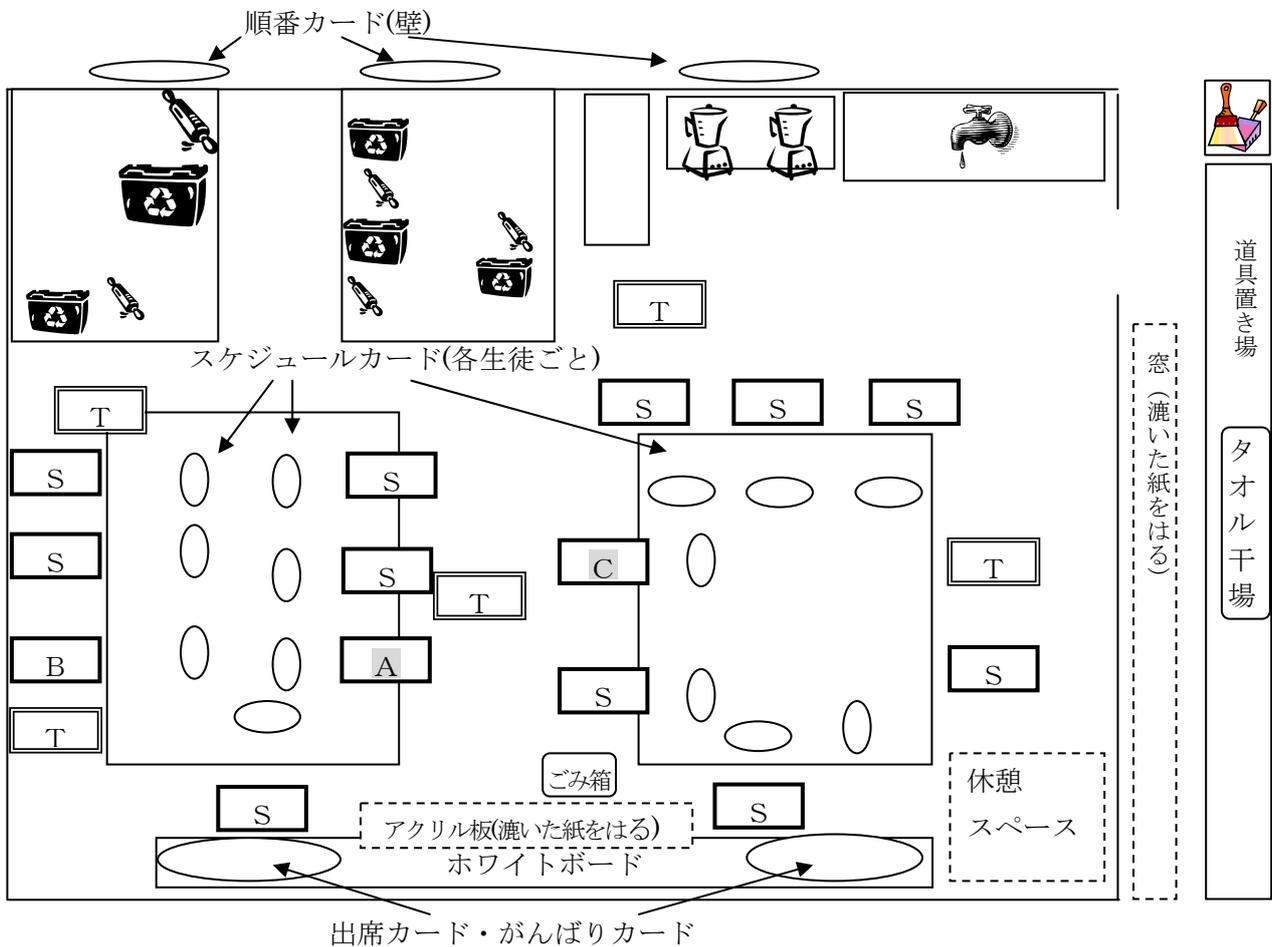
5. 指導計画・・・計50時間

| | 単 元 | 指 導 内 容 |
|----|--|---|
| 9 | ・牛乳パックを利用し紙漉きでの はがき作り，A4・B4用紙作り ↓ ・製品への仕上げ ○カレンダー ○はがき・シールセット ○しおり，メッセージカード ○ランチヨンマット | ・紙漉きでのはがき作り，A4・B4用紙作りをする。 ラミネートをはがす 小さくちぎる，切る ミキサーにかけ，パルプ液を作る 漉き枠にセットし，紙を漉く |
| 10 | | |
| 11 | | |
| 12 | | ・バザーに向け製品に仕上げる。 パンチで飾りを作り，貼る ステンシルで模様を付ける 飾りつけをして，ラミネートで仕上げる |

6. 本時について

年 月 日 () 第○校時 プレハブ中学部紙漉き作業室にて

(1) 教室環境



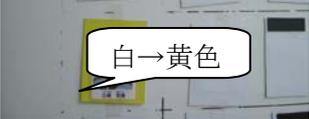
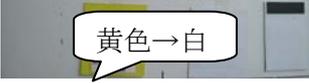
(2) 準備

出席カード，がんばりカード(2種)，タイマー，スケジュールカード，手順カード，ミキサー，牛乳パック，トレイ，かご，はさみ，セラピーマット，アクリル板，紙漉きセット(パッド，漉き枠，タオル，布，めん棒など)

(3) 本時の目標

- それぞれの工程で，丁寧さを意識して取り組む。

(4) 展開 A (〇年男)

| 学習内容・活動 | A (〇年男) 本時の目標 (評価の観点) |
|---|---|
| <p>1. 作業室に来たことを知らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席カードを黄色にする。  | <ul style="list-style-type: none"> ○ きれいに紙を漉くことを意識して行うことができる。(失敗したら、自分からやり直す) ○ パルプを途中で足して、パルプ液の濃度を自分で調整することができる。 |
| A (〇年男) についての 支援の工夫 | |
| <p>2. スケジュールカードで、作業内容を確認する。</p> <p>3. 窓ふきをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雑巾を濡らして、絞る。 ・窓ガラスをふく。 ・雑巾を洗って絞り、干す。 <p>4. 始めの挨拶をする。</p> <p>5. B4の大きさの紙を3枚漉く。</p> <p>6. 牛乳パックを小さくちぎる。</p> <p>7. ミキサーをかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「つぎどうぞ」カードを受け取ると、ミキサーの場所に移動する。 ・タイマーは7分。 <p>8. 後片づけをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箒で床を掃く。 <p>9. 自己評価をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「目標達成」または「がんばん」のカードを貼る。 <p>10. 終わりの挨拶をする。</p> <p>11. 作業室から帰ることを知らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席カードを白色にする。  |  <ul style="list-style-type: none"> ○ どの窓を拭くか、知らせる。 ○ 日直の号令に合わせて、声を出して挨拶するよう、促す。 ○ 自分から紙漉きを行おうとしない時は、スケジュールカードを確認するよう促す。 ○ 紙漉きが終わると、順番カードを裏返し、報告するように伝えておく。 ○ 教師も横で一緒に作業し、小さくちぎることを意識できるようにする。 ○ 自分でちぎった紙を持って移動するよう、促す。 ○ 念のため、タイマーの時間をチェックする。 ○ 床を掃くよう促し、見守る。 ○  か  のカードから選択し、貼るよう促す。 ○ 挨拶の際、名札を白にしてから教室を出るように、全体に声をかける。   |

B (○年男)

| 学習内容・活動 | B (○年男) 本時の目標 (評価の観点) |
|--|--|
| 1. 作業室に来たことを知らせる。 ・出席カードを黄色にする。 2. スケジュールカードで作業内容を確認する。 | ○ 写真を見て、はさみ・トレイ・紙を自分で準備することができる。 ○ 道具準備の後～後片づけの前までの時間 (約20分以上)、はさみで紙を切る工程の作業に、継続して取り組むことができる。 |
| 3. 窓ふきをする。 ・雑巾を濡らして、絞る。 ・窓ガラスを拭く。 ・雑巾を洗って絞り、干す。 4. 始めの挨拶をする。 5. 道具の準備をする。 ・廊下から、はさみ・トレイ・紙を持って来る。 6. 紙を切る作業をする。 ・細く切る。 ・細く切った紙を更に小さく切る。 7. 後片づけをする。 ・はさみ・トレイ・切った紙を片づける。 ・タオルをハンガーに干す。 8. 自己評価をする。 ・「目標達成」または「がんばん」のカードを貼る。 9. 終わりの挨拶をする。 10. 作業室から帰ることを知らせる。 ・出席カードを白色にする。 | B (○年男) についての 支援の工夫 |
| | ○ 教師も一緒に窓ふきを行う。雑巾が水っぽくならないよう充分絞るように、言葉かけをする。 ○ 教師は外側、Bは内側を拭くようにする。汚れている箇所があれば教師が外側から指差して伝えるようにし、協力して拭くようにする。 ○ 日直の号令に合わせて、声に出して挨拶をするよう、促す。 ○ まずは言葉かけをせず、Bが自分から動き出すのを見守る。なかなか動き出さない場合は、写真カードを指差して、道具を準備するよう促す。 ○ 教師も横で一緒に作業をすることで、作業に集中できる雰囲気を作り、時間いっぱい継続して作業に取り組むことができるようにする。 ○ はさみを誤った持ち方で使おうとしている場合や、はさみを持ったまま背伸びをしようとしている場合等は、言葉かけをして、注意を促す。 ○ 紙の切り方が大きすぎる場合は、言葉かけをし、教師が切った紙を示して、適切な大きさを切るように促す。 ○ 切った紙は、ミキサー横のトレイの中に、教師と一緒に入れる。はさみとトレイは、言葉かけを控え、Bが自分で片づけるのを見守る。 ○ 友だちと協力してタオルをハンガーに干すよう、見守る。後片づけの進行状況に応じて、教師も一緒に行う。 ○ 日直の号令に合わせて、声に出して挨拶をするよう、促す。 |

C (〇年男)

| 学習内容・活動 | C (〇年男) 本時の目標 (評価の観点) |
|--|---|
| 1. 作業室に来たことを知らせる。 ・出席カードを黄色にする。 | ○ 紙漉き (はがきサイズ) を5枚、漉くことができる。 ○ 後片付けを一人で取り組むことができる。 |
| | C (〇年男) についての 支援の工夫 |
| 2. スケジュールカードで作業内容を確認する。 | ○ スケジュールカードで作業内容と流れを作業が始まる前にしっかり確認する。 |
| 3. 始めの挨拶をする。 | ○ かん高い声や支援者を引き止める行為が目立つ時は、状況に応じて肯定的な言葉かけを行い、情緒の安定を図る。一方で、作業の妨げにならないよう過剰に関わらないようにする。 |
| 4. 紙漉きをする。(はがきサイズ) ・はがきの色と漉く場所を確認する。 | ○ 紙を漉く目標枚数を確認することで見通しをもち、目標意識を付ける。 |
| 5. 紙を切る作業をする。 ・牛乳パックを切る。 ・紙を細かく切る。 | ○ 基本的に好きな作業なので、できるだけ言葉かけをせず、作業を見守る。 |
| 6. 後片づけをする。 ・はさみ・トレイ・切った紙を片づける。 ・台ふきをする。 | ○ 後片づけは、支援者を頼ろうとするので、必要な指示だけ行い、自主的な行動を促す。 ○ 台ふきは、はじめに拭く箇所を伝えることで、支援者との関わりや報告を減らし自立した活動を促す。 |
| 7. 自己評価をする。 ・「目標達成」または「さんねん」のカードを貼る。 | ○ 次回の作業意欲につながるよう、本時の作業内容を振り返ってからカードを貼るようにする。 |
| 8. 終わりの挨拶をする。 | |
| 9. 作業室から帰ることを知らせる。 ・出席カードを白色にする。 | |

紙を漉く目標枚数を決めることで、作業が中断することを防ぎ、自主的な活動を促す。

